

## 創薬科学フロンティア研究センター講演会報告書

2018年3月16日

報告者：京都薬科大学病態生理学分野 教授  
がんプロコーディネーター 芦原英司

日時：2018年2月16日（金）13：30～17：00

場所：京都薬科大学愛学館3階愛学ホール（A31講義室）

主催：創薬科学フロンティア研究センター

共催：文部科学省多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン

参加者数：104名（学部生：77名、大学院生：6名、教職員：18名、本学以外：3名）

概略：本セミナーは創薬科学フロンティア研究センターの主催、文部科学省多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プランの共催にて、大学院生および学部学生に向けて啓発活動の一環として行われた。

### 後藤学長



内容：

後藤学長からの開会の辞に引き続き、京都工芸繊維大学・セラミック物理学研究室教授の Giuseppe Pezzotti 先生から「The importance of Raman spectroscopy in diagnostics and its future developments」とのご

### Giuseppe Pezzotti 先生



講演をいただいた。ラマン分光の基礎から基礎研究への応用、臨床応用まで幅広いお話しをいただき、最後にはラマン分光を用いた簡便な診断技術開発への将来展望にまで触れたご講演であった。

2 演題目として、京都大学医学部附属病院・放射線部准教授の中本裕士先生に「放射性薬剤を用いて病気を診る・治す」と題してご講演いただいた。"Theranostics"の概念を

### 中本裕士先生

軸にソマスタチン受容体や PSMA を標的とした放射性薬剤を用いる診断と治療法について実際のイメージング画像をお示しいただきながら、最先端の臨床研究の現状をご説明いただいた。

続いて、国立循環器病研究センター・画像診断医学部部長の樋口隆弘先生から「分子イメージングとトランスレーショナルリサーチ」と題して、基礎研究から臨床研究への懸け橋としての心臓 PET 分子イメージングの最新技術をご紹介いただいた。



次に、本学放射性同位元素研究センター准教授の河嶋秀和先生から「薬学領域における放射性同位元素を用いた研究の現状と展望」と題し、薬学領域で活用されている放射性同位元素及び放射性分子プローブについて概説いただき、基礎研究の実情と本学における今後の研究展開についてお話しをいただいた。これらイメージング技術が、がん研究、がん臨床に深く浸透し、すでに応用されていることが、聴講した学部生、大学院生、本学教員も

**河嶋秀和先生**



よく理解できるお話しであった。

最後に、創薬科学フロンティア研究センター、研究科長である赤路健一副学長から、イメージング技術に対する薬学研究者の関わりの重要性の話があり、本学でも今後展開していく旨、説明があり、閉会となった。

**樋口隆弘先生**



**赤路健一先生**



### セミナー風景

